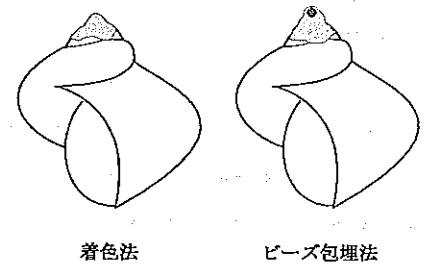


5. 標識方法

本事業では標識に関する試験を行い、現在はこの試験で成績の良かった方法を用いて、全数標識放流を実施している。試験を行ったのは、図IV-3に示した殻頂部を着色する方法と殻頂部にビーズを接着しそれを樹脂で包埋する方法である。試験した中で、シアノアクリレート系樹脂（アロンα）で着色する方法とスチレン系樹脂（FRP樹脂）と塗料の混合剤で着色する方法の標識残存率は他と比較して非常に高く、800日後で80%以上であった（図IV-4）。シアノアクリレート系の方がやや成績が良かったが、スチレン系の場合、塗料の色を変えることにより多種類の群識別ができること、凝固剤の配合割合を変えることにより固まる速度を調節できること、作業効率がよいこと（表IV-6）等の利点があるので、現在は、スチレン系樹脂に塗料を混合する方法を採用している。

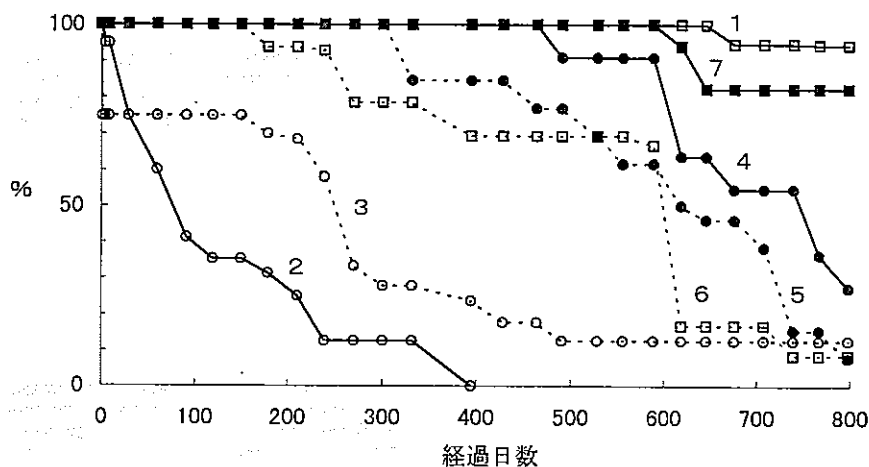


図IV-3 ヤコウガイの標識方法

表IV-6 試験を行った標識方法の概要

標識番号	1	2	3	4	5	6	7
標識方法	着色法	ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	着色法
標識材料*	シアノ	エポキシ 大ビーズ	エポキシ 小ビーズ	シアノ 大ビーズ	シアノ 小ビーズ	シアノ 小ビーズ	スチレン 塗料
作業効率 (個/人・時)	100	60以下	60以下	60以下	60以下	120	245

*：シアノ：シアノアクリレート系接着剤、エポキシ：エポキシ系接着剤、スチレン：系合成樹脂
大ビーズ：径3mm・高さ1.9mm、小ビーズ：径2.2mm・高さ1.4mm



図IV-4 標識の残存率の経時変化
(図中の数字は標識番号、表IV-6参照)

参考文献

- 1) Randall, J. E. (1964): Contributions to the biology of the queen conch, *Strombus gigas*. Bull. Mar. Sci. Gulf & Carb., 14, 246-295.